

病名	症状の特徴及び経過	潜伏期	感染経路	登園基準	予防接種	その他注意事項
細菌性赤痢	発熱、腹痛、下痢などが急激に現れる	1～7日	経口感染 (感染者の便)	医師において感染のおそれがないと認めるまで		感染症予防法における三類感染症
インフルエンザ	発熱(38℃以上) 悪寒、頭痛、筋肉痛、倦怠感、咽頭痛、咳	1～3日	飛沫感染 接触感染	発症した後5日を経過しかつ、解熱した後3日を経過するまで	○	肺炎、中耳炎等の合併症
百日咳	病初期よりしつこい咳。発熱はあまりない。連続性、発作性の特有の咳が続く	7～10日	飛沫感染 空気感染 接触感染	特有の咳がとれるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	◎	無呼吸発作、けいれん
麻疹(はしか)	せき、眼やに、高熱、口中にコブリック斑。顔面に次ぎ身体、手足へ発疹	10～12日	飛沫感染 空気感染 接触感染	発疹に伴う発熱が解熱後3日	◎	肺炎、中耳炎等の合併症
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺(耳たぶの下)が急に腫れる。痛みを伴い酸っぱいものの飲食が増す。	14～24日	飛沫感染 接触感染	耳下腺、顎下腺又は、舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	○	無菌性髄膜炎、難聴等の合併症
風疹	発熱と同時にバラ色の発疹が出現し、約3日で消える。頭部、耳後部のリンパ節腫脹	14～21日	飛沫感染	発疹が消失するまで	◎	髄膜炎や紫斑病の合併症
水痘(水ぼうそう)	身体と首から顔面に発疹。紅斑、水痘、膿疱、かさぶたの順に変化する。	11～21日	空気感染 飛沫感染 接触感染	全発疹がかさぶたになるまで	○	
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振。眼症状として結膜充血、眼痛、眼脂。	5～7日	飛沫感染 接触感染	主要症状が消退した後2日まで		
結核	初期はほとんど自覚症状がなく気づきにくい。発熱、咳、疲れやすい、食欲不振	年齢、菌量、体質、等による	空気感染	医師において感染のおそれがないと認めるまで	◎	感染症予防法における二類感染症
腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)	症状のないものから、下痢(水様便～血便)、激しい腹痛等様々。	3～8日	経口感染 (飲食物、便)	医師において感染のおそれがないと認めるまで		感染症予防法における三類感染症
流行性角結膜炎(はやり目)	眼やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白目に出血。	5～12日	接触感染 (プール水、手指等)	医師において感染のおそれがないと認めるまで		眼脂、分泌物に触れない。タオル等共用しない。手洗い励行
急性出血性結膜炎	眼やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白目に出血。	約1日	接触感染	医師において感染のおそれがないと認めるまで		
日本脳炎	急激な発熱、頭痛で発症。初期症状として吐き気、頭部硬直等。	5～15日	コガタアカイエカ		◎	
突発性発疹	突然の発熱が3～4日続く。熱が下がると同時に小斑点状発疹が出現。	約10日	飛沫感染 経口感染 接触感染	解熱後1日以上経過し全身状態がよいこと		生後6ヶ月～24ヶ月の子が感染することが多い
溶連菌感染症	(上気道感染)発熱、のどの発赤、腫れ、痛み(猩紅熱)発熱、扁桃炎、莓状舌、発疹。	2～5日	飛沫感染 経口感染	抗菌薬内服後24～48時間を経過していること。ただし治療の継続は必要。		リウマチ熱、腎炎の合併症
ウイルス性肝炎(A型肝炎)	発熱、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、下痢、おう吐、腹痛。3、4日後に黄疸。	14～40日	糞口感染	肝機能が正常になってから		
手足口病	発熱、口腔内の痛みを伴う水疱。手、足、脚部の水疱性丘疹	3～5日	飛沫感染 糞口感染 接触感染	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)普段の食事ができること		髄膜炎の合併症。回復後も2から4週間、便にウイルスが排泄される
ヘルパンギーナ	発熱、のどの痛み、まれに頭痛、筋肉痛、発疹。	2～4日	飛沫感染 糞口感染 接触感染	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)普段の食事ができること		髄膜炎の合併症。回復後も2から4週間、便にウイルスが排泄される
伝染性紅斑(りんご病)	かぜ様症状と顔面の紅斑、四肢伸側にレース状の紅斑。	10～20日	飛沫感染	発疹のみで全身状態の良い者		溶血性貧血や紫斑病の合併症
マイコプラズマ肺炎	ゆっくりはじまるかぜ様症状、しつこい乾咳、発熱、胸痛。	2～3週	飛沫感染 接触感染	急性期すぎ全身症状の良い者		
感染性胃腸炎(流行性嘔吐下痢症)	嘔吐、下痢が突然はじまる。	1～3日	糞口感染 食品媒体感染 接触感染	下痢、嘔吐症状が消退した後		脱水症状に注意
伝染性膿痂疹(とびひ)	紅斑、水疱、びらん、皮が厚いかさぶた	2～10日	接触感染 かさぶたでも感染	皮膚が乾燥しているか湿潤部位が被覆できる程度のものであること		
RSウイルス感染症	発熱、鼻汁、咳嗽(がいそう)喘鳴(ぜいめい)、呼吸困難	2～8日	接触感染 飛沫感染	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態がよいこと		生後6ヶ月未満の児は重篤化しやすい。

「学校保健安全法」、「感染症予防法」及び保育所における「感染症ガイドライン」より、抜粋

注1. 感染する期間は学校保健安全法における出席停止期間に準じる。医師の診断により登園しても差し支えないときはこの限りではない。

注2. 予防接種 ◎予防接種法に基づく接種 ○任意接種